

### 第3回 大阪府立難波支援学校 学校運営協議会 議事録

校名	府立難波支援学校
校長名	益子 典子

開催日時	令和5年 2月 28日(火) 13:28～14:32
開催場所	難波支援学校 校長室
出席者(委員)	高知 委員(会長)、中島 委員(副会長)、谷口 委員、辻 委員、鈴木 委員、藪根 委員
出席者(学校)	益子 校長、樋口 教頭、他4名
傍聴者	申出者なし
協議資料	別紙のとおり
備考	特になし

#### 議題等(次第順)

- (1) R4年度 学校評価について
- (2) R5年度 学校経営計画について
- (3) その他

#### 協議内容・承認事項等(意見の概要)

- (1) 令和4年度 学校評価について
  - 中島委員)
    - ・学部間交流は、これまでどちらかという受け身だった子どもたちが主体的に計画し、学年が下の子どもたちに教えてあげるという意味で良い経験になって非常に良いと思う。
  - 辻委員)
    - ・私の知る限り、学部間交流の実績が1か年度で13回というのは非常に多いと思う。
    - ・難波支援学校は良い意味で現場主義の学校だと思う。他の支援学校ではまず机上で考えてから実践するところが多いが、それだと必ず計画と実践との間で乖離が生じる。難波支援ではやりながら、それを「まとまり」としてつなげていながら広げていくという方向で取り組んでいて、私はそれが支援学校での教育としての本筋ではないかと思う。
    - ・学部間交流でのこれだけの実績を今後、中長期的に小中高連携にどのようなようにつなげていくか期待しています。
    - ・教員の心理的な負担の軽減については、非常に難しいところがある。保護者対応を例にとると、保護者が子どもの教育について少しでも良くしたいという思いがある。その気持ちがストレートに伝えられると受け止める側は強い批判と感じてしまいがちだが、そういう場合はチームで共有して保護者が求めているものをチームで模索し、その成果を教育の中でうまく活かしてほしい。
  - 谷口委員)
    - ・先日、地域の中学校が難波支援学校の児童生徒との交流する機会をいただき、私も同行させていただいた。
    - ・難波支援学校からは「おもてなし」の心をいただき、地域の中学校の生徒も笑顔で帰路についていた。来年度も続けてほしい。
  - 鈴木委員)
    - ・全体的に目標を上回るものばかりで、非常に充実した1年を過ごされたと思う。
    - ・難波支援学校では、ゆめ水族園や学部間交流を含めて多様性が重んじられていて、素晴らしい。
    - ・前回も話したが、今年度初めて支援学校に教育実習生をお願いしたが、実習生からは小中学校での教育実習に比べてとても良い経験をしたという感想を聞くことが多い。改めて支援学校の教育のすばらしさを実感した。
  - 藪根委員)
    - ・評価指標について、取組みの目的がはっきりしていて、私たちにわかりやすい内容になっているので、伝わりやすい。
    - ・学部間交流の回数が多いとのことだが、子どもたちにとっては良い経験を積み重ねることができるので、大いに意義のあることだと思う。多くの先生方に見ていただけるのは、子どもの成長にとっても有意義ですし、子どもの安全にもつながるので、ありがたい。
    - ・「紙相撲」の企画は保護者間での何気ない会話から生まれたものですが、大成功に終わり、非常によかったと思う。
    - ・保護者の中にはすごくいい意見を持っている人もいるので、参考にしてほしい。
- (2) 令和5年度 学校経営計画について
  - 中島委員)
    - ・今年度も非常にわかりやすい言葉で書かれていて、目標もはっきりしているので、よいと思う。
    - ・防災教育については、例えば通学途上で震災にあった場合にどのような行動をとればよいのか、ぜひ子どもたちに教えてほしい。
  - 辻委員)
    - ・私見だが、学校経営計画は余白(柔軟性)を持つことが必要。
    - ・どんなにきれいな設計図でも飛行機が飛ぶとは限らないように、(飛行機が飛ぶためには)難波支援学校に通う子どもたちに応じた取り組みが必要になってる。先生方の創意工夫やアイデアが年度途中にでも組み込める余白をもった計画にしてほしい。
  - 谷口委員)
    - ・防災関係については、例えば学校で被災して保護者が迎えにいけない時など、地域としても協力をさせていただきたいと思う。
    - ・今後も地域との連携について相談させてほしい。
  - 鈴木委員)
    - ・「子どものアセスメント結果を個別の指導計画に活用するシステムの構築」とあるが、校内システムの構築が主眼ではなく、保護者が学校で子どもたちに何をしてくれるのかがわかり、それが個別の指導計画にどのように反映されるのかがわかるようにすることが重要。
    - ・授業時間数を減らすことについては、単に時間数を減らすというのではなく、成果まで見通した計画にした方がよい。
    - ・自主研修などの結果を子どもたちにどう返していくのか説明したほうが計画の意義も増してくると思う。
  - 藪根委員)
    - ・情報モラル教育の充実に関して、子どもたちが「スマホ」を使う機会が日常的に増えている。スマホは使い次第で非常に重宝するので、授業の中でもぜひ使い方の指導、教授をお願いしたいと思う。
    - ・防災教育について、例えば自立コースの子どもたちに受付を担当してもらうなど、応援参加を後押ししてほしい。
- (3) その他
  - ・事務局から今回は保護者等からの意見書の提出がなかった旨の報告あり。